みんなの笑顔 支えた6団体

新しい時代にふさわしい福祉活動を実践している個人や団体を顕彰する「読売福祉文化賞」の受賞団体が決まった。今年で17回目を迎え、一般部門は、孤立しがちなひきこもりの本人や家族を地域社会が連携して支援することに取り組む「NPO法人楽の会リーラ」（東京都豊島区）など3団体が選ばれた。高齢者福祉部門は、医療や福祉の専門家と地域住民が支えあい、高齢者が安心して暮らせる在宅介護の仕組みづくりを目指す「認定NPO法人新田の風（長野県上田市）」など3団体が選ばれた。受賞者・団体には活動資金として100万円が贈られる。各地域で福祉の向上に取り組む受賞者・団体の活動を紹介する。

読売福祉文化賞

【選考委員】
安藤雄太　東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー
栗原小巻　女優
袖井孝子　シニア社会学会会長
高木喜司　和洋女子大学准教授
馬場　清　東京おもちゃ美術館副館長
保高芳昭　読売新聞東京本社編集委員

主催　読売新聞社
　　読売光と愛の事業団
後援　厚生労働省
　　日本福祉文化学会

一般部門

NPO法人Being ALIVE Japan　東京都世田谷区

スポーツ 療養中の子に

スポーツを楽しむ療養中の子どもたち（8月、東京都品川区で）

長期療養中の子どもたちでも楽しめるスポーツ活動の60分間プログラムを企画、提供している。子どもそれぞれの症状や状態を考慮し、皆で取り組める内容にして、プロゴルファーの青木功さんや男子マラソン日本記録保持者の大迫傑さんらも招いてきた。

理事長の北野華子さん(32)は5歳の時、指定難病「家族性地中海熱」を患い、18歳まで入退院を繰り返した。走るのが大好きだったが安静にするように言われ、自身はスポーツを諦めた。

転機は大学院に留学した際、病院で病児向けのスポーツ活動を見たこと。「子どもが自信を得て、仲間の立場を考えるようになったり、社会性も育まれたりしていて感動した」。帰国後、病児や家族の心理的な支援を行う専門資格「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」を取得し、帰国後、子どもが主体的に治療に取り組めるよう活動した。

企画は2015年4月以降、都内外の12施設で計140回行った。最近は病院側からの依頼が増え、手応えを感じている。「スポーツを通してできることに目を向ける姿勢が身につけば、きっと治療にも前向きになれる。活動をもっと普及させたい」と話している。

（東京社会部・鍛冶明日翔）

NPO法人楽（らく）の会リーラ　東京都豊島区

ひきこもり 地域と支援

コミュニティーカフェでスタッフらと活動内容などについて話す市川さん

孤立しがちなひきこもりの本人やその家族を支援しようと、地域の公的支援機関や民生委員、ケアマネジャーらと連携を目指す「地域家族会」の設立・運営を支援してきた。

80歳代の親が50歳代のひきこもりの子どもと暮らす「8050問題」も深刻化。自身もひきこもりだった長女を持つ事務局長の市川乙允さん(73)は「家族だけでは限界がある。SOSを出せる場所があるかどうかが重要」と話す。現在は都内で18家族会が活動し、2018年9月には各家族会が連携できる仕組みも作った。

活動は01年4月にひきこもりの親の会「楽の会」として始まった。ただ、家族会だけではきめ細かい支援が難しく、地域も巻き込んだ組織を発足。運営マニュアルを作成し、ひきこもり本人や家族らの居場所となるコミュニティーカフェもつくった。「怠けている」「親の育て方が悪い」といった偏見をなくすため、地域住民らへの説明会や事例検討会も開いてきた。

家族会は今年度中には25地域に広がる予定だ。市川さんは「地域の資源を動員し、様々な生き方に寛容で、互いに支え合える社会をつくりたい」と意気込んだ。

（東京社会部・鮏川裕太）

NPO法人そらいろプロジェクト京都　京都市伏見区

発達障害に気遣い散髪

子どもの様子を気遣いながらカットする赤松さん

発達障害の影響で散髪が苦手な子どもたちに配慮するヘアカット活動「スマイルカット」を、美容師で理事長の赤松麻滋さん(49)が2010年から開始。14年にはNPO法人を設立し、理美容師向けの講座や学校での講演を開き、散髪時の注意点や活動の理念を伝えている。

「美容院で散髪できるように練習させてやりたい」。そんな発達障害児の母親の依頼を最初は軽い気持ちで引き受けたが、バリカンを動かした途端、子どもがパニックを起こした。聴覚過敏のため、耳元で鳴る大きな音を恐れたことに後から気づき、「一人一人の個性に合わせたカット」を模索するようになった。

専門書を読み、まずは子どもと同じ目線になれるよう心がけた。保護者から障害の特徴などをじっくりと聞き、本人にはあらかじめイラストを示してカットの手順を知らせる。時には自宅を訪問して散髪することから始め、成功体験を積んでもらうことも重要だとわかった。

活動は口コミで広まり、現在、ノウハウを受け継ぐ全国の約50店舗をスマイルカット実施店に認定している。「誰もが笑顔になれるスマイルカットが、どこでも受けられるようにしたい」と意欲を見せる。

（京都総局・三味寛弥）

高齢者福祉部門

みんなのピアノを贈る会　水戸市

休眠ピアノ復活させ活用

贈ったピアノによるミニコンサート

活動開始から11年。使われなくなったピアノ13台と電子オルガン1台を老人介護施設や児童養護施設に寄付してきた。原動力は「音楽を多くの人に楽しんでもらいたい」という思いだ。

家庭や施設からピアノがなくなってきていると感じた副代表の大内智子さん(66)の呼びかけでスタートし、現在、会の登録メンバーは55人ほど。代表は元水戸三高校長、高野愁一さん(79)。

自宅などに眠っているピアノを引き取り、使える状態にして施設などに寄付してきた。年に1度の調律にも協力し、継続的に使ってもらえるようにしている。

さらに年に数回はメンバーが、指導する声楽教室の生徒やピアニストらを連れてピアノを贈った施設でミニコンサートを開く。月に4回、水戸市内の児童養護施設に出向き、子どもたちへのピアノ指導も行っている。

現在は新たに65歳以上を対象にした歌唱コンクールを開催しようと準備中だ。「一緒に歌うと元気になれるので、そういう場を提供できればいい」とメンバーは意気込む。大内さんは、今回受賞できてこれからの活動がさらに現実的になった。今後も音楽は楽しいもの、生きるパワーになることを活動を通して伝えたい」と話している。

（水戸支局・浜口真実）

認定NPO法人新田（しんでん）の風　長野県上田市

お年寄り サロンで親睦

ふれあいサロンでゲームを楽しむ参加者

上田市新田地区で、医療や福祉の専門家と地域住民が支え合い、高齢者が安心して暮らせる在宅介護の仕組みを作ろうと奮闘している。理事長で医師の井益雄さん(67)は「大きな励みになる」と受賞を喜ぶ。

柱となっているのが、毎週金曜に高齢者が集う「ふれあいサロン」。参加者の約3割が一人暮らしの高齢者で、囲碁や合唱、ゲームなどで親睦を図る。顔見知りになり仲間意識を持つことで、孤独感を抱えず、住みなれた自宅で暮らし続けることを目指す取り組みだ。

井さんは勤務医として介護に関わっていた時、「早く家に帰りたい」と涙ながらに訴える高齢者の姿を目の当たりにしながらも、どうすることもできなかった経験がある。自身で医院を開業した後、「高齢者がより安心できる仕組みを作りたい」と2011年に活動を始め、17年に認定NPO法人となった。

意思の疎通が図れなくなった時に備えた「思いをつなぐ手帳」や、終活のためのエンディングノートの記入を推奨するなど、誰もが安心して暮らせる社会の実現に奔走。井さんは「大きな課題である介護力の低下に対処するため、この流れが県内や全国に広がっていければ」と願っている。

（長野支局・横山洋介）

外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクトチーム　名古屋市港区

外国人介護に救いの手

在日中国人らへの福祉について話し合う木下さん（中央）らメンバー

名古屋市を中心に介護が必要な外国人高齢者らを支援するため、介護通訳の養成と派遣、外国人への介護制度に関わっている時、「早く家に帰りたい」と涙ながらに訴える高齢者の姿を目の当たりにしながらも、どうすることもできなかった経験がある。自身で医院を開業した後、「高齢者がより安心できる仕組みを作りたい」と2011年に活動を始め、17年に認定NPO法人となった。

意思の疎通が図れなくなった時に備えた「思いをつなぐ手帳」や、終活のためのエンディングノートの記入を推奨するなど、誰もが安心して暮らせる社会の実現に奔走。井さんは「大きな課題である介護力の低下に対処するため、この流れが県内や全国に広がっていければ」と願っている。

きっかけは8年ほど前、代表の木下貴雄さん(55)の父がパーキンソン病などを患い、介護が必要になったことだった。父は中国残留孤児で、日本語は日常会話程度。手続きなどはすべて木下さんが通訳や代筆をする必要があり、難しさを痛感した。

中国からの帰国者を支援するNPO法人を2014年に設立。帰国者を対象に日本の介護制度に関する説明会を開いたり、行政や介護施設の職員を招いた異文化介護を考えるシンポジウムを開いたりしてきた。

介護現場での会話などを実践形式で学ぶ研修も行い、これまでに27人の介護通訳を養成し、ボランティアで派遣してきた。木下さんは「自分たちが頑張ってきたことが評価された」と受賞を喜ぶ。

近年は日系ブラジル人やフィリピン人などの需要も高まっていると感じているといい、「今後は多言語の通訳養成プログラムを開発し、外国人高齢者全体をサポートできる体制作りを行政にも働きかけたい」と意気込んでいる。

（中部支社・徳道亮）